

第37回ユネスコ総会  
上野文部科学大臣政務官 首席代表演説  
(2013年11月8日 ユネスコ本部)

ユネスコ総会議長、  
ユネスコ事務局長、  
各国代表団の皆様、  
関係者の皆様、

まず初めに、議長の就任を心からお慶び申し上げます。

**(はじめに：ユネスコ改革への期待及び協力・支援)**

議長、

このたびの第37回総会は、ユネスコの今後8年の方向性を決める極めて重要な機会です。ユネスコが、現在直面している財政難を、構造的な問題に取り組む好機と捉え、事業の精選、管理運営の合理化及び財政の健全化等を一層進めることが必要です。我が国は、ボコバ事務局長が推進してきた諸改革への継続的な取組に対し、可能な限りの協力と支援を行ってまいります。

**(教育：将来の国際教育アジェンダの形成とEFA及びESDの推進)**

議長、

ユネスコが、EFAの達成上の課題を明らかにしつつ、2015年以降の国際教育アジェンダの形成に強いオーナーシップを持って、責任を果たしていくことを期待します。また、EFAとともにESDを一体的に推進していくことで教育の質は効果的に向上すると考えます。

我が国は、来年11月に愛知県・名古屋市と岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」をユネスコと共催します。本日は開催自治体代表もこの場に参加していただいています。

多くの加盟国の閣僚・各国国際機関のハイレベル及び幅広いステークホルダーが参加し、「国連ESDの十年」におけるESDの活動を振り返るとともに、2014年より先のESDの具体的な推進方策について議論できるよう強く期待しています。

また、ポスト2015年開発アジェンダに関する議論への各国政府の努力とともに、ユネスコの更なる貢献を期待します。

**(科学：比較優位な分野及びサステイナビリティ・サイエンスの推進)**

議長、

日本は、前回の第36回ユネスコ総会の機会に、地球規模の課題への自然科学と人文・社会科学の統合的アプローチである「サステイナビリティ・サイエンス」に関する提言をユネスコへ提出しました。これが、次期中期戦略及び事業・予算に反映されることを期待します。

**(文化：遺産保護事業を通じた文化多様性の促進)**

議長、

ユネスコが、世界遺産及び無形文化遺産の保護等の防止等を通じ、文化多様性の促進へ一層貢献することを期待します。

昨年、日本でまとめられた「京都ビジョン」を踏まえ、地域コミュニティを含む全ての関係者が遺産の保護と保全に更に取り組むことを期待します。

**(むすび)**

議長、

我が国を襲った東日本大震災から2年半が経ちました。日本政府は、学校の復旧や被災地の復興に全力を尽くしているところです。また現在、「教育再生」を政府の最重要課題として掲げて取り組んでいます。こうした取組の成果を、ユネスコ及び各国と共有し、教育の普及と質の向上に貢献してまいります。

最後に、ユネスコが、ボコバ事務局長の強いリーダーシップの下、国際社会へ貢献し一層発展することを心より期待します。また、このために、更に多くの加盟国が、ユネスコを強力に支援することを期待します。

御清聴ありがとうございました。

(了)